

【表の見方】

- 耐震診断は、震度6強から7程度の大地震の地震に対して倒壊又は崩壊する安全性を評価するものです。震度5強程度の中規模地震に対しては、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限り、損傷が生じるおそれは少なく、倒壊するおそれはありません。
- 耐震診断結果の一覧は、建物所有者からの報告をもとに客観的な診断結果(評価)の数値を記載しています。

- ① 「構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果」欄に記載されている値から、【附表】の「Ⅰ」・「Ⅱ」・「Ⅲ」のどの区分に該当するのか確認できます。
- ② 建物所有者からの報告に基づいて今後の予定等を記載しています。

【○棟】 $I_s/I_{so}=1.10 \geq 1.0$ かつ $C_{TU} \cdot S_D = 0.35 \geq 0.3$ となっているため、「Ⅲ(大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い)」となります。

附表 1 構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性(Ⅲ)の下線部を参照
(備考欄に記載がない場合、 $Z \cdot G \cdot U$ は1.0なので、 $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U = 0.3$)

建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果		耐震改修等の予定		備考
				I_s/I_{so}	$C_{TU} \cdot S_D$	内容	実施時期	
□□□□								
○棟	○市○○	○号 ○○	5-3 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	<u>I_s/I_{so} 1.10</u>	<u>$C_{TU} \cdot S_D$ 0.35</u>			
△棟			3-2 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)	<u>I_s 0.55</u>	<u>q 1.05</u>	耐震改修	平成○年○月着手 平成○年○月完了	

【△棟】 $0.3 \leq I_s = 0.55 < 0.6$ かつ $1.0 \leq q = 1.05$ となっているため、「Ⅱ(大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある)」となります。

附表 2 構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性(Ⅰ、Ⅱ及びⅢ)の下線部を参照

附表 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
	Ⅰ 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い	Ⅱ 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある	Ⅲ 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い
1 5-3 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$
2 3-2 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)	$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq I_s$ かつ $1.0 \leq q$

(※)『構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果』の欄に記載の、 I_s/I_{so} に用いる I_{so} は、 U (用途指標)=1.0として算定した。また、 Z (地域指標)及び G (地盤指標)は、備考に記入がない限り1.0とする。

記号の説明（構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性）

記号	名称	説明
I_S	構造耐震指標	建築物の耐震性能を表す指標（建築物の強さ、粘り、形状・バランスの良さなどを考慮）
q	保有水平耐力に係る指標	地震力に建築物が耐えることができる強さを表す指標
-	上部構造評点	地震力に建築物が耐えることができる強さを表す指標
V_R	構造耐震指標	建築物の耐震性能を表す指標（建築物の強さ、粘り、形状・バランスの良さなどを考慮）
V_I	地震入力指標	現行の建築基準法等により設計される建築物とほぼ同程度の耐震性能を表す指標
I_{SO}	構造耐震判定指標	現行の建築基準法等により設計される建築物とほぼ同程度の耐震性能を表す指標
$C_T \cdot S_D$ $C_{TU} \cdot S_D$	累積強度指標 (C_T) 終局時累積強度指標 (C_{TU}) 形状指標 (S_D)	地震力に建築物が耐えることができる強さを表す指標
Z	地域指標	地震活動度や地震動強さを考慮した補正係数（神奈川県内は $Z=1.0$ ）
G	地盤指標	地盤、地形、地盤と建物の相互作用を考慮した補正係数
U	用途指標	建築物の用途による補正係数（公表対象でこの指標を用いているものは全て $U=1.0$ ）
R_t	振動特性係数	建築物の振動特性を表す係数（公表対象でこの係数を用いているものは全て $R_t=1.0$ ）
GI_S	構造耐震指標	地震力に建築物が耐えることができる強さを表す指標（一般財団法人建築保全センターによる「官庁施設の総合耐震診断基準」の指標）